

取材のお願い

**国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present
トークシリーズ「アジア交流ラウンジ」 全ラインナップ・日程発表**

国際交流基金は、11月1日（日）から8日（日）にかけて、トークシリーズ「アジア交流ラウンジ」を開催します。アジア各国・地域を代表する映画監督と、第一線で活躍する日本の映画人とのオンライン・トークを毎日発信します。本事業は、第33回東京国際映画祭（Tokyo International Film Festival：以下、TIFF／10月31日～11月9日）のプログラムの一環として実施するものです。

このたび、すべてのラインナップと配信日時が決まり、Zoomビデオウェビナーへの登録を開始しました。

国を越えた人の移動が制限され、映画の製作、上映、そして映画人同士の交流や協働のあり方が従来と全く異なる状況にある中、アジアの映画人たちは今、何を思うのか、何処を目指すのかを語り合います。ぜひご期待ください。

記

事業名称： 国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present
トークシリーズ「アジア交流ラウンジ」

主催： 国際交流基金アジアセンター、東京国際映画祭

配信日時： 11月1日（日）18:30～20:00 キム・ボラ × 橋本愛
11月2日（月）18:30～20:00 ホアン・シー × 是枝裕和
11月3日（火）18:30～20:00 アピチャップポン・ウィーラセタクン × 富田克也・相澤虎之助
11月4日（水）18:30～20:00 特別セッション「映画の未来と配信」
11月5日（木）18:30～20:00 モーリー・スリヤ × ヤン ヨンヒ
11月6日（金）18:30～20:00 ツアイ・ミンリヤン × 片桐はいり
11月7日（土）13:00～14:30 ジャ・ジャンクー × 黒沢清
11月8日（日）18:30～20:00 リティ・パン × 吉田喜重

※日本語、英語への通訳あり。11月4日（水）は日本語のみで配信。

※11月7日（土）のみ配信時間は13:00～14:30となります。

視聴申込方法：東京国際映画祭公式ウェブサイトからお申し込みください。

Zoomビデオウェビナーによる視聴となります（登録無料）。

URL：www.tiff-jp.net

登壇者のプロフィールなどの詳細は、国際交流基金アジアセンターウェブサイトをご覧ください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■キム・ボラ × 橋本愛 【11月1日（日）18:30～20:00】

**キム・ボラ 映画監督**

1981年ソウル生まれ。東国大学映画映像学科卒業、コロンビア大学大学院映画学科修了。短編『リコーダーのテスト』（11）は全米監督協会の最優秀学生作品賞をはじめ受賞多数、注目を集める。長編デビュー作『はちどり』（18）は釜山国際映画祭 NETPAC 賞・観客賞を受賞。その後、同作品はベルリン国際映画祭（ジェネレーション 14 プラス部門）審査員大賞、韓国版オスカー「青龍映画賞」最優秀脚本賞など、世界中の主要映画祭で 50 を超える賞を獲得した。

**橋本愛 女優**

1996年熊本県生まれ。映画『告白』（10/中島哲也監督）に出演し、注目を集める。『桐島、部活やめるってよ』（12/吉田大八監督）でキネマ旬報ベスト・テン新人女優賞、日本アカデミー賞新人俳優賞などを受賞。NHK 連続テレビ小説『あまちゃん』（13）でエランドール賞新人賞を受賞。2015年、主演2作品『リトル・フォレスト』（14/森淳一監督）『ワンダフルワールドエンド』（15/松居大悟監督）にてベルリン国際映画祭に初参加。映画のみならず、テレビドラマやアニメ、演劇など多方面で活躍中。2021年NHK大河ドラマ『青天を衝け』に出演予定。

●モデレーター： **是枝裕和 映画監督**

■ホアン・シー × 是枝裕和 【11月2日（月）18:30～20:00】



Photo courtesy of Taipei
Golden Horse Film Festival
Executive Committee

ホアン・シー 映画監督／脚本家

1975年台北生まれ。ニューヨーク大学ティッシュ・スクール・オブ・アーツ卒業。2001年に台湾へ戻り、「三視多媒體」に入社。ホウ・シャオシェン監督初期 TVCM の数々の名作や『憂鬱な楽園』（96）でプロダクション・アシスタントを、同監督による『黒衣の刺客』（15）で助監督を務める。『台北暮色』（17）で監督デビューを果たす。同作品は台北映画祭、台北金馬映画祭ほか各国映画祭での受賞多数。



©Laurent Champoussin

是枝裕和 映画監督

1962年東京生まれ。1987年早稲田大学第一文学部卒業後、テレビマンユニオンに参加し、主にドキュメンタリー番組を演出。2014年に独立し、制作者集団「分福」を立ち上げる。主な監督作品に、『誰も知らない』（04/カンヌ国際映画祭最優秀男優賞）、『そして父になる』（13/カンヌ国際映画祭審査員賞）、『万引き家族』（18/カンヌ国際映画祭パルムドール、第91回アカデミー賞外国語映画賞ノミネート）、日仏合作『真実』（19/ヴェネチア国際映画祭オープニング作品）。次回作は、自身初となる韓国映画『ブローカー』（仮）（ソン・ガンホ、カン・ドンウォン、ペ・ドゥナ出演、2021年撮影予定）。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ アピチャップン・ウィーラセタクン × 富田克也・相澤虎之助

【11月3日（火）18:30～20:00】



Photo by Sean Wang

アピチャップン・ウィーラセタクン 映画監督

1970年バンコク生まれ。タイ東北部コンケンで育つ。1994年、映画・映像制作を始める。2000年、自身初の長編作品を完成。また1998年以来、世界各国で展覧会やインスタレーションを展開。しばしば非直線的で、転位の強い感覚を伴う作品は、記憶、個人レベルのポリティクス、社会的な問題を密やかな形で扱う。数々のアートプロジェクトや劇映画は、カンヌ国際映画祭（審査員賞、パルムドール）をはじめ受賞多数。2016年、テート・モダン（ロンドン）にて映画作品の回顧展。また、プロジェクション・パフォーマンス『フィーバー・ルーム』は世界中の主要芸術祭で上演されている。最新の映画作品『メモリア』（20）はコロンビアを舞台にイギリスの女優ティルダ・スウィントンを主演に迎える。



Photo by Takahiro Yamaguchi

富田克也 映画監督

1972年山梨県生まれ。脚本家・映画監督の相澤虎之助らとともに映像制作集団・空族（くぞく）を立ち上げ、「作りたい映画を勝手に作り、勝手に上映する」をモットーに活動。代表作に郊外都市の荒んだ若者を描いた『国道20号線』（07）、寂れゆく日本経済を背景に、肉体労働者、移民、そしてヒップホップで奏でる『サウダーヂ』（11）。またタイおよびラオスにて長期滞在制作を行った『バンコクナイツ』（16）では、20世紀のインドシナ半島での戦争の傷跡をトレースしつつ、複層的な物語構成によって、東南アジアから現代日本を逆照射した。

**相澤虎之助 映画監督／脚本家**

1974年埼玉県生まれ。早稲田大学シネマ研究会を経て空族に参加。『国道20号線』（07）『サウダーヂ』（11）『チェンライの娘』（12）『バンコクナイツ』（16）『典座-TENZO-』（19）など富田克也監督作品の共同脚本を務めている。監督作に、『バビロン2 -THE OZAWA-』（12）など。瀬々敬久監督と共同脚本を務めた『菊とギロチン』（18）で、キネマ旬報ベスト・テン日本映画脚本賞を受賞。

●モデレーター： 石坂健治 東京国際映画祭シニア・プログラマー／日本映画大学教授

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ 特別セッション「映画の未来と配信」 【11月4日（水）18:30～20:00】

●パネリスト（五十音順・敬称略）

河村光庸	株式会社スターサウンズ代表取締役
是枝裕和	映画監督
坂本和隆	Netflix コンテンツ・アキュイジション部門ディレクター
松岡宏泰	東宝株式会社常務取締役
行定勲	映画監督
リム・カーワイ	映画監督

●モデレーター： 恩田泰子 読売新聞東京本社 編集局文化部次長

※本セッションは日本語のみで配信されます。

■ モーリー・スリヤ × ヤン ヨンヒ 【11月5日（木）18:30～20:00】



Photo courtesy of Five Flavours Film Festival

モーリー・スリヤ 映画監督

1980年ジャカルタ生まれ。長編デビュー作『フィクション。』（08）はインドネシア映画祭で最優秀作品賞を含む4つの賞に輝くなど、国内外で高い評価を得た。最新作『マルリナの明日』（17）はカンヌ映画祭監督週間を皮切りに米国、カナダ、日本を含む14か国で劇場公開された。同作品は第18回東京フィルメックス最優秀賞を受賞したほか、第91回アカデミー賞外国語映画賞にインドネシアを代表して出品された。



©Emi Naito

ヤン ヨンヒ 映画監督

1964年大阪生まれ。在日コリアン2世。朝鮮大学校卒業、米国 NY ニュースクール大学大学院メディア・スタディーズ修士号取得。1995年よりアジア各国を取材し報道番組やTVドキュメンタリーを制作。父親を主人公に自身の家族を描いたドキュメンタリー映画『ディア・ピョンヤン』（05）はベルリン国際映画祭 NETPAC 賞、サンダンス映画祭審査員特別賞などを受賞。ドキュメンタリー映画第2作『愛しきソナ』（09）を経て、初の劇映画『かぞくのくに』（12）を制作。ベルリン国際映画祭 CICAIE 賞をはじめ国内外で多くの賞に輝いたほか、第85回アカデミー賞外国語映画賞に日本を代表して出品された。

●モデレーター： 石坂健治 東京国際映画祭シニア・プログラマー／日本映画大学教授

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ ツアイ・ミンリャン × 片桐はいり 【11月6日（金）18:30～20:00】



Photo by Claude Wang

ツアイ・ミンリャン 映画監督

1957 年クチン（マレーシア）生まれ。1977 年台湾に移住。中国文化大学卒業。『青春神話』（92）で監督デビュー。『愛情萬歳』（94）でヴェネチア国際映画祭金獅子賞、『河』（97）でベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞。近年はアート界でも注目され、『ヴィザージュ』（09）はルーブル美術館に収蔵された。2012 年、「行者」シリーズを開始し、現在まで短編 8 本を制作。10 作目の長編『郊遊＜ピクニック＞』（13）でヴェネチア国際映画祭審査員大賞、11 作目の長編劇映画『日子』（20）でベルリン国際映画祭デヴィ賞審査員特別賞を受賞。



片桐はいり 俳優

1963 年東京生まれ。成蹊大学在学中に「もぎり」をしながら俳優活動を開始。『コミック雑誌なんかいない！』（86/滝田洋二郎監督）で映画デビュー。近年の主な作品に『かもめ食堂』（06/荻上直子監督）『小野寺の弟・小野寺の姉』（14/西田征史監督）『沈黙-サイレンス-』（16/マーティン・スコセッシ監督）『蜜蜂と遠雷』（19/石川慶監督）『私をくいとめて』（20/大九明子監督）など。映画と映画館への愛情に満ち溢れたエッセイ『もぎりよ今夜も有難う』（10）なども上梓。映画のみならず、舞台やテレビなど幅広く活躍中。

●モデレーター：市山尚三 東京フィルメックス ディレクター

■ ジャ・ジャンクー × 黒沢清 【11月7日（土）13:00～14:30】



Photo courtesy of Xstream Pictures

ジャ・ジャンクー 映画監督／プロデューサー／脚本家

1970 年山西省汾陽生まれ。北京電影学院卒業。卒業制作の『一瞬の夢』（98）はベルリン国際映画祭で新人監督賞・NETPAC 賞を受賞、釜山国際映画祭ニューカレンツ賞、ナント三大陸映画祭ではグランプリを獲得。2006 年、三峡ダムに水没する古都・奉節を舞台に『長江哀歌』を製作。第 63 回ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞受賞。その他、主な作品に『プラットホーム』（00）『青の稲妻』（02）『世界』（04）『四川のうた』（08）『山河ノスタルジア』（15）『帰れない二人』（18）『海が青くなるまで泳ぐ』（20）など。



黒沢清 映画監督

1955 年神戸市生まれ。立教大学在学中より 8 ミリ映画を撮り始め、1983 年商業映画デビュー。『CURE』（97）で世界的に注目される。『回路』（01）はカンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞を受賞、『アカリイミライ』（02）は同映画祭コンペティション部門に出品された。その後も『トウキョウソナタ』（08）で同映画祭「ある視点」部門審査員賞、『岸辺の旅』（14）では監督賞を受賞。初のフランス映画『ダグレオタイプ』の女』（16）などがある。最新作は第 77 回ヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞した『スパイの妻』（20）。

●モデレーター：市山尚三 東京フィルメックス ディレクター

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■リティ・パン × 吉田喜重 【11月8日（日）18:30～20:00】



DR Bophana Center

リティ・パン 映画監督／作家／プロデューサー

1964年プノンペン生まれ。高等映画学院（パリ）卒業。『S21：クメール・ルージュの虐殺者たち』（03）をはじめ、クメール・ルージュによる大量虐殺に焦点を当てた作品を中心に、数々のドキュメンタリーおよび劇映画を製作、国際的に高い評価を得ている。『消えた画 クメール・ルージュの真実』（13）はカンヌ国際映画祭「ある視点」部門でグランプリ受賞。最新作『照射されたものたち』（20）はベルリン国際映画祭ドキュメンタリー賞を受賞。ボパナ視聴覚リソースセンターおよびカンボジア・フィルム・コミッションを設立、カンボジアの映像分野の牽引役として精力的に活動している。

**吉田喜重 映画監督**

1933年福井市生まれ。1955年、東京大学文学部仏文学科卒業後、松竹に入社。木下恵介などの助監督を経て、『ろくでなし』（60）で監督デビューを果たす。後に妻となる岡田茉莉子主演『秋津温泉』（62）をはじめ、松竹ヌーベルバーグの旗手として活躍。1966年、現代映画社を設立。『エロス＋虐殺』（69）『戒厳令』（73）など、現在に至るまで数多くの映画作品およびドキュメンタリーを製作。『鏡の女たち』（02）はカンヌ国際映画祭の公式招待作品として上映された。2008年、ポンピドゥー・センター（パリ）で大規模回顧上映が行われた。2020年、歴史長編小説『贖罪 ナチス副総統ルドルフ・ヘスの戦争』を上梓。

●モデレーター： **土田環** 山形国際ドキュメンタリー映画祭プログラムコーディネーター／早稲田大学講師（専任）

【アジア交流ラウンジ】

本事業は世界的に活躍する是枝裕和監督が発案し、検討会議メンバーと共に企画。当初は、各国の映画人が自由に交流できるリアルなラウンジを構想していましたが、今年はオンライン形式となり、豪華ゲストがさまざまなテーマでトークを展開します。

※検討会議メンバー（五十音順。敬称略）

石坂健治 東京国際映画祭シニア・プログラマー／日本映画大学教授

市山尚三 東京フィルメックス ディレクター

是枝裕和 映画監督

土田環 山形国際ドキュメンタリー映画祭プログラムコーディネーター／早稲田大学講師（専任）

福岡美由紀 株式会社分福 プロデューサー

【会場での取材に関するご案内】

東京国際映画祭でのご取材には必ずプレスパス登録が必要となります。プレスパス登録がお済でない方は tiff-press@tiff-jp.net にお問い合わせください。

・お問合せ（プレスパス担当）：tiff-press@tiff-jp.net

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

◎新型コロナウイルス感染防止対策のため、今年の東京国際映画祭における取材に関してはプレスパスに登録済みの方のみを対象とした「完全事前登録制」を導入させていただきます。ご取材ご希望のプレスの皆様には、イベント毎に専用申請フォーム（※東京国際映画祭のプレスパス登録者が閲覧できる「プレスサイト」にてご確認ください）に必要事項をご記入の上、下記にある締め切りまでにご申請いただきますようご協力をお願い申し上げます。なお、応募多数で定員に達した場合は抽選とさせていただきますので、予めご了承下さい。

記者・スチール：当該イベント前日 15 時締切（落選の方へのみ前日 18 時までにメール配信）

ムービー：当該イベント前日 18 時締切（落選の方へのみ前日 20 時までにメール配信）

【取材に関するお問い合わせ】 東京国際映画祭事務局 プロモーショングループ tiff-press@tiff-jp.net

<紙・電波媒体> 楽舎（山崎、渡辺）TEL：03-5457-2238 desk@rakusha.co.jp

<WEB 媒体> 岩館 TEL：090-2486-2483 jh0721tamagoyaki@gmail.com

※現在東京国際映画祭事務局はテレワークを実施しております。お問い合わせはメールにてお願いいたします。

【第 33 回東京国際映画祭 開催概要】

開催期間：2020 年 10 月 31 日（土）～11 月 9 日（月）

会場：六本木ヒルズ、EX シアター六本木（港区）、東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場、東京国際フォーラム（千代田区）、ほか都内の各劇場および施設・ホール

公式サイト：www.tiff-jp.net

【国際交流基金アジアセンター（The Japan Foundation Asia Center）】<https://jfap.jp>

独立行政法人国際交流基金は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは 2014 年 4 月に設置され、ASEAN 諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアに共に生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。

【東京国際映画祭（Tokyo International Film Festival, TIFF）】www.tiff-jp.net

本年度 33 回を迎える東京国際映画祭は日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭です。1985 年、日本ではじめて大規模な映画の祭典として誕生した TIFF は、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に、世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp